

<小田原市への投稿> 2011.9.9

みなさんの声援を受け、JICAシニアボランティアとしてカンボジアへ来て、早や1年が過ぎようとしています。

私の仕事は、公共事業省の建設機械オペレータを訓練することです。

現場での実地訓練では、「こうやれ」式、「ああ、やるな」式、「だまってやらせる」式、を組み合わせで行っています。私が以前、東チモールで3年間同様の活動をした際、使ったやり方です。私が実際にやって見せる。仲間がやっているのを見せて「あれはダメ！」と注意する、また、自由にやらせるのも大事です。習熟度は、運転した時間に比例するところが大きいからです。

オペレータは上手に土を動かすだけでなく、機械の故障を予防して稼働率を上げたり、寿命を伸ばすことに責任があります。稼働率の10%アップや、寿命の10%アップは、建設機械の数を10%増やすのと同じ意味をもつのです。このためには、機械の構造や機能も教える必要があります。

もちろん安全教育も重要です。安全教育は、「KYT」（故障予知トレーニング）を中心に実施しています。KYTとは教室でプロジェクターを使い、危険が潜む現場のイラストを見せいち早くその危険を見つける訓練です。数多くのKYTを行うことによって危険に対する感受性を高めることが出来ます。上から物が落ちてきたときの身のかかし方を教えるのではなく、物が落ちて来そうな所に立たないという訓練を行うのです。

一方私生活のほうは、アパートに入って最初にやったことは、生ゴミ堆肥用の専用木箱を家具屋に作ってもらったこと。生ゴミ堆肥は日本でも、小田原市の「生ごみ堆肥化推進事業」に参加しながらやっていますが、時々失敗します。しかし、カンボジアでは簡単なようです。10階のバルコニーに置いてあるので風通しが良いのと気温が高いことで生ごみが適当に乾燥してくれて、ウジ虫もわかずによく発酵してくれるのです。10ヶ月間自炊しているので、計算すると100kg近い生ゴミを投入しているはずですが、40リットルほどの木箱の中の体積はほとんど増えてない。不思議なことです。問題は出来た堆肥の活用先がないことです。

還暦を過ぎて、単身での海外生活にはきついこともあります。ボランティア仲間や現地の人との交流を楽しみながら、残り1年間の目標を果たし、健康で帰れることを願っています。

